

令和4年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（楊梅 幼稚園）

教育目標	
健康で、心豊かに、自分らしくたくましく生きる子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>○保護者アンケートの結果から、教育目標が概ね達成できたと考えられる。保護者にも幼児期の子どもの発達や幼稚園教育を理解し、協力していただけたと感じる。今後も、家庭教育と連携しながら、子どものより良い育ちが保証できるよう、幼稚園での遊びや生活習慣の確立について発信していきたい。</p> <p>○下京雅小学校との連携が年々進み、9年間で子どもの育ちを保証するという考え方のもと、その学年、時期に応じた教育が進められるようになってきている。今後も、互いの教育を理解し合い、学び合うことで幼稚園教育の充実を図りたいと考えている。また、架け橋期のカリキュラムの見直しに注力していきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>○幼稚園と小学校の連携が進んでいることがよいと思われる。引き続き、地域の市立幼稚園として、望ましい幼児教育の実現に向けて取り組むことが大切であると考えられる。</p> <p>○多くの保護者が幼稚園での生活や遊び、子どもの育ちに満足されていることが嬉しい。地域としても協力できることは是非していきたい。</p> <p>○コロナで制限のある教育活動が多かったが、次年度以降感性症対策に変化があることも予想される。子どもたちに多様な経験ができるようにしていきたい。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月21日	学校運営協議会
最終評価	2月20日	学校運営協議会

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組	
・子どもが安心して、自分の世界を生き生きとその子らしさを發揮して遊ぶことができるよう、子ども一人一人の主体性を尊重する。	
・子どもが遊び込むことができるよう、子どもがしようとしていることや内面から発せられる様々な表現を子どもの立場に立ってわからうとし、その経験の価値を見出し、意味づけ、その姿をより一層引き出す環境やかかわりを創意工夫していく。	
・子どもが自己表出や葛藤を十分に経験する中で、自分自身で、自分の気持ちに折り合いをつけたり、どのようにすれば他者と気持ちよく生活することができるのか気付いたりすることができるよう、教職員全体で、長い見通しをもって関わる。	
・教職員同士が学びあい、高めあい、相談し支えあえる信頼関係が、子どもの健やかな成長やすべての教育活動の充実に欠かせないことを教職員一人一人が認識する。	
・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う状況の変化や様々に突発的に起こる事象にも柔軟に迅速に組織的に対応し、子どもの健康と安全を守るとともに子どもの発達にふさわしい経験ができる環境を確保する。	

(取組結果を検証する) 各種指標

○保護者アンケートの評価項目

- ・「子どもは幼稚園の遊びを楽しんでいますか」
- ・「子どもはいろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいますか」
- ・「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいますか」
- ・「子どもは自分のことは自分でしようとしていますか」
- ・「教職員は話しやすく、相談しやすいですか」

中間評価

各種指標結果

○アンケート項目について、保護者も教職員も高く評価をしている。

- ・設問「子どもは幼稚園の遊びを楽しんでいますか」
回答「あてはまる・概ねあてはまる」100%
- ・設問「子どもはいろいろなもの、こと、人との関りや触れ合いを楽しんでいますか」
回答「あてはまる・概ねあてはまる」100%
- ・設問「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいますか」
回答「あてはまる・概ねあてはまる」95%
- ・設問「子どもは自分のことは自分でしようとしていますか」
回答「あてはまる・概ねあてはまる」94%
- ・設問「教職員は話しやすく、相談しやすいですか」
回答「あてはまる・概ねあてはまる」98%

自己評価

分析(成果と課題)

保護者アンケートにおいて、概ね教育目標を達成していると考えられる。しかし、数パーセントの保護者は友達と遊べているか不安に感じたり、子どもの身辺自立に対して課題を感じたりしている。教職員においても、もっと子どもたちが友達とのかかわりを楽しみながら、幼稚園生活を充実させてほしいという願いを課題として感じている。

分析を踏まえた取組の改善

保護者と連携しながら、幼稚園生活がより充実したものとなるよう保育計画を立て、子どもたちが友達とかかわりを深め、一緒に遊ぶ楽しさを十分に感じられるような保育を実現させる。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- 保護者アンケートを実施する。

学校関係者評価

幼稚園という集団の中では、子どもたちは自分のことを自分でしようとしているが、各家庭においては、保護者が手や口を出しすぎてしまうこともあるかもしれない。時には、子どもを見守ったり、毅然した態度で伝えたりしていくことも必要である。

防犯も含め、様々に子どもたちの命を守る取り組みをしっかりとしてほしい。避難訓練についても非常滑り台を使用して月に一回行っていることを聞き、安心した。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

○アンケート項目について、保護者も教職員も高く評価をしている。

- ・設問「子どもは幼稚園の遊びを楽しんでいますか」
回答「あてはまる・概ねあてはまる」95%

- ・設問「子どもはいろいろなもの、こと、人との関りや触れ合いを楽しんでいますか」
回答「あてはまる・概ねあてはまる」96%
- ・設問「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいますか」
回答「あてはまる・概ねあてはまる」98%
- ・設問「子どもは自分のことは自分でしようとしていますか」
回答「あてはまる・概ねあてはまる」88%
- ・設問「教職員は話しやすく、相談しやすいですか」
回答「あてはまる・概ねあてはまる」100%

自己評価	分析(成果と課題) , 重点目標の達成状況、次年度の課題
	<p>○保護者アンケートからは「あてはまる・概ねあてはまる」が多く、おおむね教育目標を達成できていると考えられる。</p> <p>○子どもたちが自分の好きな遊びを見つけてしようとする姿や、友達とかかわりを広げながら遊び姿を保護者に常に発信してきたことで、保護者が幼児教育を理解しようとしてくださり、家庭と連携しながら子どもたちの発達を支えてきたことが子どもの育ちにつながったと考えられる。</p> <p>○「自分のことを自分でしようとする」という設問では幼児期に大切にしたい基本的生活習慣の確立や身辺自立について、子どもの育ちを見直したが、他の項目より少し評価が低い。子どもたちが自分のことを自分でしようとする気持ちを支え、自分に自信をもって生活できるようにしていきたい。</p>
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善
	<p>○子どもたちが安心して自分の思いを出し、したい遊びを見つけることが幼稚園で一番大事にしたい姿である。様々な家庭環境からやってくる子どもたちに、この大切な幼児の姿、育ちを保証し、毎日来ることが楽しい幼稚園の実現に向けて取り組んでいきたい。</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<p>○様々な感染症等で一定期間欠席になってしまう子どもたちの教育の保障を考えていきたい。</p> <p>○子どもが「自ら何かしようとする」ということに課題があるのではないか。子どもたちが自分でしようとするように気持ちを支えてほしい。</p>

(2) 幼小連携・接続に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・社会に開かれた教育課程を実践する。 ・下京雅小学校と合同で研究し、9年間を見通して「自ら学ぶ力」を高めることを目指した「心が動く」教育を創造する ・小・中学校、就園前教育施設との連携のモデル園として発信する。
(取組結果を検証する) 各種指標
<p>保護者アンケートの評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもはいろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいますか」

中間評価

各種指標結果
<ul style="list-style-type: none"> ・設問「子どもはいろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいますか」

	<p>回答「あてはまる・概ねあてはまる」 100%</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>保護者アンケートでは、すべての保護者があてはまると回答している。このことから子どもたちは、人との触れ合いを楽しむことができていると考えられる。特に、前期では5歳児と1年生の交流があったり、小学校のハーモニーフェスティバル、スポーツフェスティバルに参加したりすることで、子ども同士のつながりやそれに伴う育ちが見られた。今後も、計画的に交流を深めていきたい。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>カリキュラム・マネジメントを幼小で一緒にすることで、互いに学びのある交流を計画したい。また、その交流での子どもの心の動きや自ら学ぶ力について教員同士がともに協議し、研究を深めていくことで、架け橋プログラムのモデル地域としての発信につなげていきたい。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公開保井郁也研究発表会の実施 ○交流保育の実施に向けた話し合いや交流後の振り返り
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>小学校の運動会を園児が一生懸命に応援していた。昨年まで一緒に幼稚園にいた1年生や小学生の姿を見ることで、憧れになるだろう。そういう交流が実践されていく幼稚園であってほしい。</p>
最終評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○設問「子どもはいろいろなもの、こと、人との関りやふれあいを楽しんでいますか」 <p>回答「あてはまる・概ねあてはまる」 96%</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）, 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者はほとんどの方が子どもたちはいろいろなもの、こと、人とのふれあいや関りを楽しんでいると捉えている。幼稚園では後期に入り、各学年が小学生との交流を楽しんだ。その取組については保護者に発信してきた。保護者は小学校の行事に幼児が参加したり、交流したりすることを温かい目で見てくださっている。 ○幼稚園と小学校の教職員が一緒に研修したり、カリキュラム・マネジメントしたりすることで、互いの発達や教育を理解し合うことが進んできている。今後、架け橋期のカリキュラムを充実し、発信していくよう連携を継続していきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○次年度、人事異動があっても、幼小の連携が組織的に継続していくようにしていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園と小学校が連携していることは大変良いことだと思う。

(3) 預かり保育について

具体的な取組
心と体を落ち着けて遊ぶことができる環境の設定や人員配置、季節や興味に応じた遊びの展開
(取組結果を検証する) 各種指標
保護者アンケート評価項目 「保護者は安心して子どもを預かり保育に参加させていますか」

中間評価

各種指標結果		
○設問「保護者は安心して子どもを預かり保育に参加させていますか」 回答「あてはまる・概ねあてはまる」 94%		
自己評価		
<table border="1"> <tr> <td>分析 (成果と課題)</td> </tr> <tr> <td>多くの保護者が安心して預かり保育を利用されている。「あてはまらない」と回答された数%の保護者はまだ預かり保育を利用したことのない保護者であった。</td> </tr> </table>	分析 (成果と課題)	多くの保護者が安心して預かり保育を利用されている。「あてはまらない」と回答された数%の保護者はまだ預かり保育を利用したことのない保護者であった。
分析 (成果と課題)		
多くの保護者が安心して預かり保育を利用されている。「あてはまらない」と回答された数%の保護者はまだ預かり保育を利用したことのない保護者であった。		
<table border="1"> <tr> <td>分析を踏まえた取組の改善</td> </tr> <tr> <td>保護者ボランティアを活用しながら、保育内容を充実させ、子どもの姿を伝えることで保護者に安心感をもってもらえるようにする。</td> </tr> </table>	分析を踏まえた取組の改善	保護者ボランティアを活用しながら、保育内容を充実させ、子どもの姿を伝えることで保護者に安心感をもってもらえるようにする。
分析を踏まえた取組の改善		
保護者ボランティアを活用しながら、保育内容を充実させ、子どもの姿を伝えることで保護者に安心感をもってもらえるようにする。		
<table border="1"> <tr> <td>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</td> </tr> <tr> <td>○預かり保育参加者数や参加者の感想などから検証する。</td> </tr> </table>	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	○預かり保育参加者数や参加者の感想などから検証する。
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標		
○預かり保育参加者数や参加者の感想などから検証する。		
学校関係者評価		
学校関係者による意見・支援策 引き続き、子どもも保護者も安心して預かり保育を利用できるようにしてほしい。		

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果		
○設問「保護者は安心して子どもを預かり保育に参加させていますか」 回答「あてはまる・概ねあてはまる」 88%		
自己評価		
<table border="1"> <tr> <td>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</td> </tr> <tr> <td>○アンケート回答の10%は預かり保育に参加したことがないという回答もあった。 ○預かり保育参加者は後期に入り増えた。保護者ボランティアに積極的に預かり保育に入ってい ただくことができ、折り紙や塗り絵と一緒に楽しんだり、絵本の読み聞かせをしていただいた りすることで、預かり保育の内容も充実したと考えられる。また、バレエや英語に触れる多様 な経験もできた。</td> </tr> </table>	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題	○アンケート回答の10%は預かり保育に参加したことがないという回答もあった。 ○預かり保育参加者は後期に入り増えた。保護者ボランティアに積極的に預かり保育に入ってい ただくことができ、折り紙や塗り絵と一緒に楽しんだり、絵本の読み聞かせをしていただいた りすることで、預かり保育の内容も充実したと考えられる。また、バレエや英語に触れる多様 な経験もできた。
分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題		
○アンケート回答の10%は預かり保育に参加したことがないという回答もあった。 ○預かり保育参加者は後期に入り増えた。保護者ボランティアに積極的に預かり保育に入ってい ただくことができ、折り紙や塗り絵と一緒に楽しんだり、絵本の読み聞かせをしていただいた りすることで、預かり保育の内容も充実したと考えられる。また、バレエや英語に触れる多様 な経験もできた。		
<table border="1"> <tr> <td>分析を踏まえた取組の改善</td> </tr> <tr> <td>○今後も保護者ボランティアや地域の方の力を借りて、子どもたちに多様な経験ができるよ うな預かり保育にしていきたい。 ○保護者のニーズに合った預かり保育の保障とともに、子どもたちの体調面に留意し保護者と連 携しながら預かり保育に参加してもらえるようにしていきたい。</td> </tr> </table>	分析を踏まえた取組の改善	○今後も保護者ボランティアや地域の方の力を借りて、子どもたちに多様な経験ができるよ うな預かり保育にしていきたい。 ○保護者のニーズに合った預かり保育の保障とともに、子どもたちの体調面に留意し保護者と連 携しながら預かり保育に参加してもらえるようにしていきたい。
分析を踏まえた取組の改善		
○今後も保護者ボランティアや地域の方の力を借りて、子どもたちに多様な経験ができるよ うな預かり保育にしていきたい。 ○保護者のニーズに合った預かり保育の保障とともに、子どもたちの体調面に留意し保護者と連 携しながら預かり保育に参加してもらえるようにしていきたい。		

学校関係者による意見・支援策

○地域として協力できることはしていきたい。

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組

- ・PTA や地域と連携し、未就園児教育相談ポスター掲示、ホームページでの発信。
- ・保護者や未就園児の様子を温かく見守り、声をかけて相談に応じたり、保護者同士をつなげたりし安心感につなげる。
- ・利用しやすい時間、幼稚園の教育の発信の工夫。

(取組結果を検証する) 各種指標

○未就園児教育相談のポスターや楊梅だよりを地域の方々に掲示をお願いしたり、児童館や未就園児教育相談などで配布したりする。

○教育相談や入園の問い合わせの際、どのような情報により問い合わせにつながったかを確認する。

中間評価

各種指標結果

ホームページやポスター、口コミなどで教育相談を知り、登録者数が少しづつ増えている。

分析（成果と課題）

夏季休業中にプール開放や音楽会を開催することで教育相談の参加者も増え、幼稚園を知ってもらう機会をとった。幼稚園説明会や地域の未就園児集いの広場や地域の小規模保育ルームとの連携も進んでいく。

分析を踏まえた取組の改善

今後も地域と連携を深めながら、入園や教育相談の連絡には丁寧に対応し、幼稚園を知ってもらう。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

○教育相談や入園の問い合わせの際、どのような情報により問い合わせにつながったかを確認する。

学校関係者による意見・支援策

地域も連携しながら進めていきたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

○教育相談「つぼみ組」の登録者は少し増えた。小学校の地域の部屋を借りてつぼみ組を開催するとも、地域や小学校と連携した子育て支援の取組となっている。

○幼稚園説明会を土曜日に実施したり、PTA に協力してもらい先輩ママからの本音を伝えてもらったりする取組により、入園前の保護者にも幼稚園をより知ってもらうことができた。

自己評価	分析（成果と課題）, 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ○行政区に一つの公立幼稚園として問合せを受ける。保護者のニーズに合った幼稚園の取組を伝えるとともに、京都市立幼稚園の大切にしている幼児教育を発信し、入園を選んでもらえるようにしていきたい。 ○地域の子育て支援事業とのつながりが深まっている。
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ○未就園児がのびのびと遊べる園庭、遊戯室、小学校の地域の部屋が保障されていることや安心して子育ての相談ができるスタッフがいるということを引き続き、発信していきたい。 ○地域の子育て支援事業との連携を進める。

（5）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組	（取組結果を検証する）各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者アンケートの評価項目 <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもはいろいろなものやこと、人と関わることを楽しんでいますか」
中間評価	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者アンケートの実施

自己評価	分析（成果と課題）
	<p>今年度も地域の扇子絵付け体験（5歳児）を実施し、地域の伝統文化に触れる経験をしたことが保護者からも喜ばれている。地域の未就園児集いの広場との連携もとることができ、楊梅だよりや教育相談の案内を配布している。</p>
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善
	<p>公立幼稚園として、地域と連携を深めながら幼稚園の取り組みや保育を積極的に発信する。</p>
学校関係者による意見・支援策	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者アンケートの実施

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
○設問「子どもはいろいろなもの、こと、人との関りやふれあいを楽しんでいますか」	
自己評価	回答「あてはまる・概ねあてはまる」 96 %
	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>○年間を通して楊梅だよりを小学校、地域に配布することで、幼稚園教育を発信してきた。</p> <p>○小学校の5大フェスティバルに参加することで、小学生をはじめ、地域の方とも間接的にかかわる機会を持つことができた。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○地域の方、運営協議会の方、架け橋ブロックの就学前教育施設の方々に広く保育を公開し、幼稚園教育を発信していくことで、地域に根差した幼稚園であり続けたい。</p> <p>○地域の子育て支援事業との連携を進める。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>○地域の子育て支援の取組と幼稚園とで連携し、地域の子育てを共に支援していきたい。</p> <p>○家庭教育が難しい家庭が増えているかもしれない。地域と幼稚園、小学校が連携しながらフォローしていきたい。</p> <p>○次年度は地域の行事も復活できるのではないかと予想している。大人も子どもも楽しめる行事をすることで地域の活性化を図りたい。</p>

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標	
見通しをもって勤務時間内に効率的に仕事に取り組み、優先順位をつけながら業務をこなす。	
具体的な取組	
	<ul style="list-style-type: none"> 教職員一人一人の自らの働き方や資質・指導力向上への意識改革を進める。 会議の効率化、校務支援員との連携、行事などの役割分担など、日々の業務を見直し改善する。 ノー残業デーを守る。 長期休業中の年休取得日を増やす。
(取組結果を検証する) 各種指標	
	<p>○長時間勤務の時間数を減らす。</p> <p>○年休取得日数を増やす。</p>

中間評価

各種指標結果	
互いに声を掛け合うことで、長時間勤務は減っている。定時退勤を意識するようになってきている。年次休暇は夏季休業中に代わり合って取得できている。	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <p>チームズを利用した職員会議の実施、保護者アンケートや預かり保育の利用申請にフォームズを利用することで業務の短時間化を図る工夫が進んでいる。研修もオンライン実施のものが増え、効率的に参加できるようになった。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>行事前には多忙になり、勤務時間を超過することもあった。より見通しをもって業務にあたることが大切であると考えられる。</p>

	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ○長時間勤務の時間数を減らす。 ○年休取得日数を増やす。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 協力できることをやっていきたい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ○長時間勤務、時間外勤務は減った。 ○冬季休業中に代わり合って年休を取得することができた。
自己 評 価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題 ○日々の残業時間は減り、後期には、月4~5時間以上の時間外勤務をしている教職員はいなかつた。 ○業務を分担したり、校務支援員に支援してもらったりすることで感染症が広がった時期も教育活動に支障をきたさず、幼稚園運営ができた。
学校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善 ○引き続き、業務を分担し、教職員一人一人が見通しをもって業務にあたり、教育活動の充実につながるようにしていきたい。